

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県 普通寺市

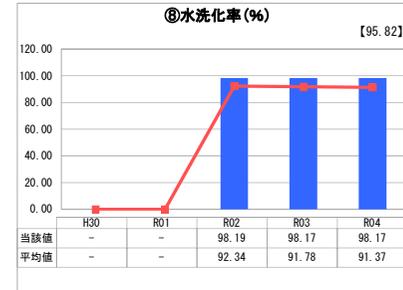
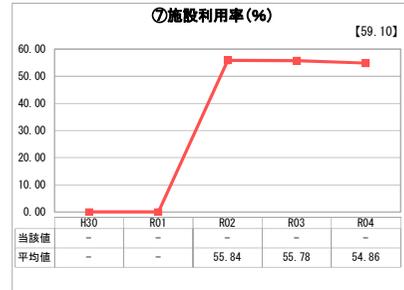
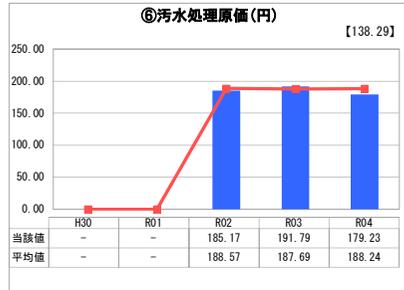
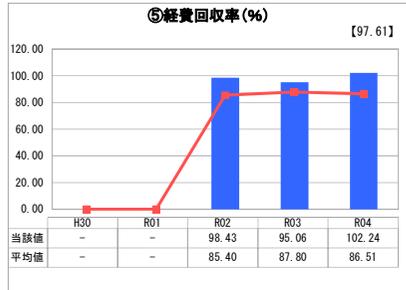
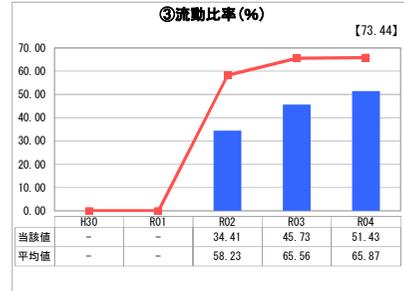
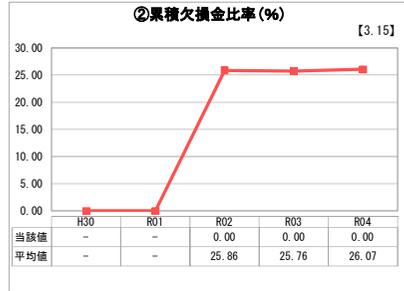
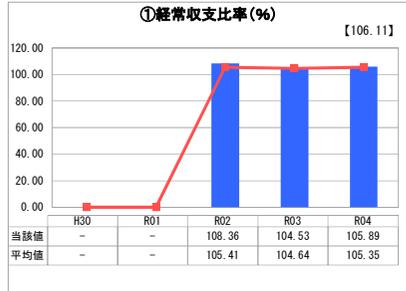
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	60.78	59.35	93.45	3,190

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,682	39.93	768.39
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,062	8.01	2,254.93

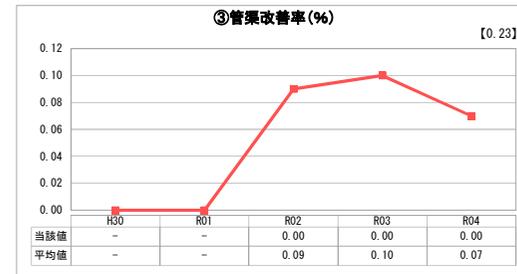
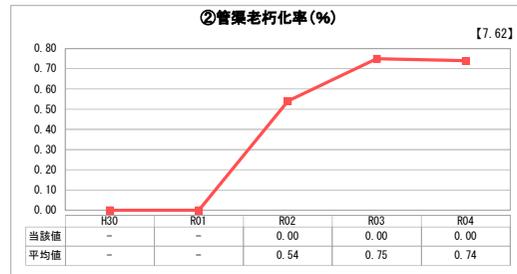
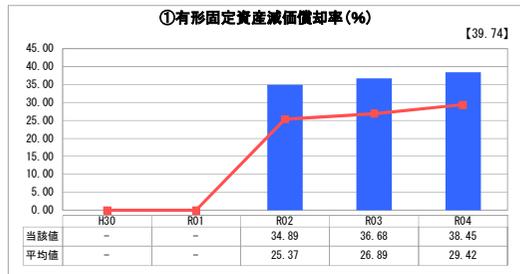
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

R2年度の公営企業会計適用以降、経常収支比率は100%以上をキープし、経営そのものは黒字体質となっている。しかしながらこれは一般会計からの繰入金により安定した収入が確保できていることが大きい。経費回収率の推移をみると、R4年度決算については102.24%となり、健全経営の水準とされる100%を上回ったが、企業会計適用後のR2年度・R3年度については100%未満となっており、汚水処理に要する費用を使用料収入では賚っていないことが原因となる。今後大幅な事業拡張は予定しておらず、人口減少に伴う有収水量の減少が想定されることから、使用料収入の増加は料金改定以外に見込めそうになく、今後も継続して業務の効率化や広域化などを検討し、汚水処理原価の抑制に努め、一般会計からの繰入金に頼らない経営を目指していく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

本市の下水道事業はH2年度に供用を開始しており、未だ耐用年数内であることから、現在策定している経営戦略（計画期間：R3年度～R12年度）の期間内で管渠更新を予定していない。一方、企業会計適用により固定資産台帳が整備されたことから経過年数の把握は可能となっている。財政上の観点からは、初期投資として管渠整備に要した元利償還金の返済が落ち着く段階で、詳細なストック管理計画を策定し、計画的に管渠更新を行うことで、投資の平準化が図れるものと考えており、当面は有収率の推移も注視しながら、管渠老朽化の進行状況の把握に努めていく。

### 全体総括

当面の間は企業債の償還が大きな負担となっており、R2年度に改定した経営戦略に基づき計画的な財政運営を図っていく。今後人口減少により有収水量の大幅な増加は見込めないが、水洗化率の維持向上に努めるとともに、汚水処理原価の抑制についても広域化や共同化を推進することで対策を講じていく。公営企業会計適用3年目の決算であり、将来の管渠更新に備える必要があることから、引き続き安定経営のための取り組みを続けていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。